

古事類苑

地部四十一

津

津ハ、ツト云フ、船舶ノ來泊スル處ニシテ、別チテ之ヲ言ヘバ、港灣ニ在ルモノヲ船津ト云ヒ、河ニ在ルモノヲ川津ト云フ、

上古神武天皇東征ノ時、御船河内ノ草香津ニ泊シ、次デ熊野荒坂津ニ至リ給フ、事ハ載セテ記紀二典ニ在リ、是レ實ニ津ノ史籍ニ見エタル始ナルベシ、神功皇后三韓征服以降、彼我ノ交通漸ク頻ニシテ、沿海ノ諸津著名ノモノモ亦尠カラズ、仁德天皇ノ朝ニ至リ、初テ攝津墨江津ヲ定メ給フ、此津ハ難波津ト並稱セラレテ、御津若シクハ大津ト云フ、二津ノ名實ニ天下ニ冠タリ、是時ニ當リテ船舶ノ海外ニ往來スルモノ皆之ニ由ラザルハナシ、而シテ進メバ必ズ對馬ニ泊ス、其一ヲ稱シテ津國ト云ヒ、其一ヲ呼ビテ津島ト云フハ、全ク之ニ由ルト云フ、

大寶ノ制、凡ソ津橋道路ハ民部省ノ管スル所ニシテ、國郡官司ヲシテ各之ヲ分轄セシメ、行旅ノ妨障ナカラシム、而シテ攝津國ハ船舶輻湊ノ地ナルヲ以テ、特ニ職ヲシテ過所ヲ勘檢セシム、爾來過所ノ事史上ニ累見シ、其制時ニ隨ヒテ寬嚴アリ、尙ホ過所ノ事ハ、關篇ニ詳ナレバ參看スベシ、

相門世々政權ヲ握ルニ及ビテハ、薩摩ノ坊津、筑前ノ博多津、伊勢ノ阿濃津最モ要津タリ、之